

30th

サタデープログラムニュース

講座番号 3 番 第一部(9:30～11:00)

声に出してみよう！

～アナウンサーが教える話し方～

講師：庄野俊哉氏(東海テレビアナウンサー)



<講師プロフィール>

1965 年、兵庫県西宮市で生まれる。立命館大学入学後、放送サークルに入り、話すことに興味を持つ。大学卒業後、1988 年東海テレビ入社。2015 年 10 月末から中日新聞「くらしの作文」を毎日音読して、東海テレビのホームページにアップしている。高齢者から人気が高く、主に県内に出張して、音読の素晴らしさを伝えている。

意外な一面 アナウンサー

ニュースなどでよく見かけるアナウンサー……。でも意外に知られていないことが多いと思います。

アナウンサーは、テレビ局やラジオ局に入社しても、すぐにテレビやラジオに出られるものではなく、半年くらいの間、話し方の様々な訓練を受けます。そして、取材から編集、放送まで、ほぼ一人で出来るようになるとアナウンサーとしての仕事が本格的に出来るようになります。庄野さんは、話すことよりも伝えることを大事にされています。

アナウンサーになると、会いたい人に会えたり、自分の好きなことや興味の持ったことについて広めたりすることが出来るなどのうれしいことがあります。しかし、うまく伝えるということが時には難しく、庄野さんはそういう時に悩み、つらさを感じています。

知られざる 音読の会

「音読の会」とは、音読のすばらしさを広めるために庄野さんが出張する企画で、2015年10月末に始まった東海テレビの社会貢献活動の一つです。名古屋市内を中心に、知多半島の美浜町、蒲郡市、岐阜市などでも活動しています。これまでに東海地区20か所で「音読の会」を開催されています。

その「音読の会」で行われていることを、サタデープログラムでも行っていただきます。

音読の力ってすごい！

音読とは簡単に言えば声に出すということですね。気持ちをこめて読む朗読とは違い、その必要はなく、とても簡単です。

今、電話や会話が衰えてしまい、LINEやメールなどの声を使わない連絡手段が発達しています。そのため、話すことや会話をするのが減る傾向にあります。話すということは、話す筋肉を鍛えるだけでなく、記憶力の向上も期待されています。そのため、認知症の予防につながると言われています。

また、小学校の国語の宿題としてあった音読は、声に出すことのすばらしさを伝え・学ぶ機会であるといえます。そのため、小学校の学習要領には「音読」が記載されています。

音読は世代を超えて楽しめるものです。新聞がなく音読できない人でも、国語の教科書・短い本を音読することで代用できます。

音読というものは、一回行うことでは上手くなりません。毎日かつ繰り返し行うことが大切です。一日三分の音読をやってみませんか、庄野さんは音読を高く位置づけています。

当日は…

当日は、音読の会で話していただいていることを広い世代にわかりやすく、実践を交えながら話していただきます。音読だけでなく、早口言葉なども行う予定です。

話すことにコンプレックスを持っている人や、もっと話すことを上手くしたい人、ぜひ来てください。話す時のコツも教えていただきます。また、テレビの裏側も聞かせてもらえるかもしれません。筆記用具を持ってきてください。

東海テレビホームページ内の音読の会ホームページには、音読の会の詳しい情報や、中日新聞のくらしの作文を庄野俊哉アナウンサーが音読した音声公開されています。ぜひ、見てください。新聞音読ホームページ→ <http://tokai-tv.com/announcer/ondoku/>